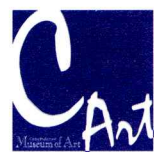


みる つくる がたる

APPRECIATE

DISCUSS

CREATE



VOL.22
1996

ART NEWS
千葉県立美術館



みる

一生誕100年記念—
〈特別展〉

椿 角雄 展

8/31^土-10/6^日

「鋸山から見た房総半島」
キャンパス：油彩 1948年
千葉県立美術館蔵

題名にある鋸山は、房総半島南部の富津市と鋸南町の境に位置し、のこぎりの歯のような山並みが山名に由来しています。この作品はその鋸山から南を望み描いたもので、大きく広がる東京湾と幾重にも連なる南房総の山々が描かれ、広大な空間が表現された作品となっています。

作品の額には裏面に『下総之住青湖山人作』と刻まれています。青湖山人とは、椿が昭和元年(1926)に船橋町立小学校の図画教師となって間

もない頃に知り合った奥主^{おくぬしきんじ}謹二の号で、椿の船橋での交友関係を示す資料のひとつとなっております。

この作品を描いた昭和20年頃の椿は、師岸田劉生^{きしだりゅうせい}の垂流であるという評価から脱しようと試行錯誤を繰り返していました。そして、油彩画を描く日本人が宿命的に直面する、油彩画に〈東洋の美〉を表現するという試みを続けながら、独自の画風を創造しようとしていました。

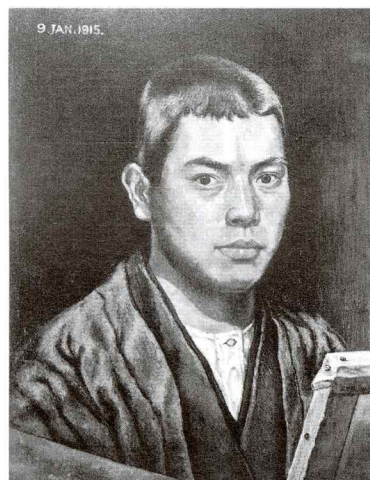
一生誕100年記念—
〈特別展〉

椿貞雄展

本年度2回目の特別展として、
岸田劉生^{きしだりゅうせい}に師事し、大正から昭和にかけて旺盛な活動を続け、本県美術界にも多大な足跡を残した椿貞雄の生涯にわたる作品を紹介する「一生誕100年記念—椿貞雄展」を8月31日(土)から10月6日(日)まで開催いたします。

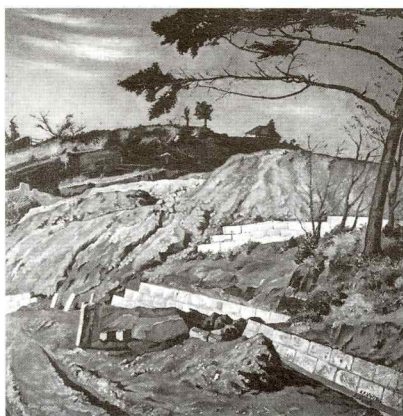
椿貞雄について

椿は、明治29年(1896)に山形県米沢市に生まれ、「白樺」などを愛読する長兄の感化で、幼い頃より絵画に親しみ、画家を志すようになります。大正3年(1914)に上京し、岸田劉生の個展を見た椿は、非常な感動を受け、劉生宅を訪問し、親しくその指導を受けるようになります。そして、翌年の第15回巽画会展^{たつみがかい}には、劉生宅を訪問した時に持参した「自画像」などを出品。最高賞を受賞し、本格的な作家活動を開始します。



自画像 1915年

大正4年(1915)草土社展^{そうどしゃ}の前身である現代の美術社主催美術展覧会に参加。同人として活躍^{むしやう}しています。師の劉生は、白樺派の武者小路実篤^{むけみち}の思想に共鳴し、白樺人道主義に深く目覚めていたため、椿自身も人道主義の洗礼を受け、人間尊重の思想のみならず、自然界の一本の草、一塊の土にも愛情

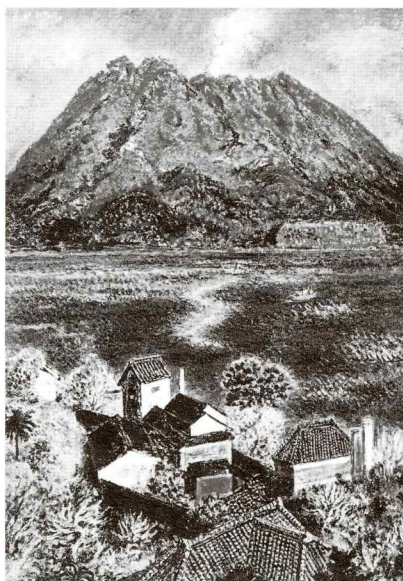


赤土の山 1915年

をそそぐようになります。この頃の椿は路傍の草や土までも描写し、劉生が主宰した草土社の名に因んだ「草土社風」と呼ばれる写実主義を強く打ち出した作品を描いています。当時流行していた後期印象派風の作品から見れば、古臭く時代錯誤と見られるその作風は、評論家たちから劉生の亜流と非難されていました。

草土社展の解散後、劉生とともに大正11年(1921)には春陽会、昭和2年(1927)には大調和会の設立に参加して活発な作家活動を繰り広げ、昭和4年(1929)からは、国画会に参加し、以後、同展を舞台に数多くの作品を発表しています。

劉生の亜流と評され、苦しみ続けた椿は、劉生の死後、心機一転を試みてヨーロッパに旅立ちます。ヨーロッパで古典絵画などに触れ「…こっちにはもうすでに偉い奴がうんといて、西洋のよさを皆出



桜島 1956-57年

し切っている。僕は飽く迄日本の美を世界の水平線に出す役目だ。…」という感慨を得て、東洋の美に対する自覚を強め、帰国後は東洋の色彩の作品を描こうとしました。そして、昭和25年(1950)には「ようやく劉生を意識しないで、自由に絵が描けるようになった」と語り、独自の画風の確立を確信するに至りましたが、その7年後の昭和32年(1957)61歳で死去しました。



朝子桃割図 1930年

県内における椿貞雄

昭和元年(1926)に山本鼎^{かなえ}の紹介で船橋町立小学校(現船橋市立船橋小学校)の図画教員となっています。山本の自由画教育の影響を受け、全国規模の展覧会で受賞する児童も輩出しています。昭和2年には鎌倉から船橋市に移住し、死去するまで過ごしました。この間、昭和24年(1949)の千葉県美術会の創立では運営委員として活躍し、毎年出品を続け、常に本県美術会のリーダーとして美術振興に多大な影響をおよぼしています。

開館時間：9:00～16:30

観覧料：大人 700 (400)
高・大学生 400 (250)
小・中学生 200 (70)
※()内は20名以上の団体料金

休館日：月曜日

(ただし、月曜日が祝日・振替休日にあたるときは開館し、翌日休館)

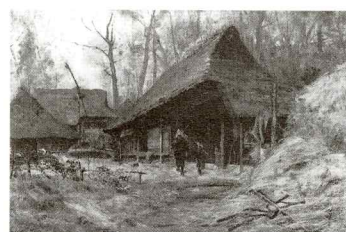
常設収蔵作品展



東山魁夷／深秋 1975年



津田信夫／鳳翔薰炉 1937年



浅井 忠／葎屋根 1887年頃

年間を通じ、テーマごとに本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画等を展示します。

〈開催中の展覧会〉

◆「房総と近代美術」

6月29日(土)～8月25日(日)
房総にゆかりの作家を中心とした収蔵作品の中から、日頃鑑賞の要望の高い作品を選んで紹介します。「房総と近代美術」は展示内容を一部替えて、8月31日(土)～10月6日(日)、11月23日(土)～1月19日(日)にも開催します。

◆「美術に表現された動物」

6月29日(土)～8月25日(日)
日本画、洋画、彫刻などの各分野の作家によって表現された動物の魅力を紹介します。

◆「椿貞雄と県展の人々」

7月6日(土)～8月25日(日)
椿貞雄は明治29年(1896)山形県

に生まれ、岸田劉生に師事しました。草土社や春陽会などで活躍するとともに、県美術会の創設に尽力しました。県展で活躍した作家の作品をあわせて紹介します。

〈今後の予定〉

◆「房総の工芸」

11月9日(土)～1月19日(日)
房総ゆかりの工芸作家の作品や房総に関わりのある工芸作品を紹介します。

◆「冬の風景」

11月23日(土)～1月19日(日)
冬の風景を描いた日本画や洋画、東山魁夷のリトグラフ集「冬の詩」などを紹介します。

◆「彫刻」

1月5日(日)～4月13日(日)
木やブロンズ、鉄などの素材を様々な技法によって表現した作品や、様々なモチーフによって表現

された作品などを紹介します。

◆「浅井忠—浅井の生涯と芸術—」

3月1日(土)～3月23日(日)
近代日本洋画の先駆者として活躍した浅井忠は安政3年(1856)江戸に生まれ、少年時代を佐倉の将門で過ごした千葉県ゆかりの画家です。工部美術学校でイタリア人画家フォンタネージに学び、多大な影響を受けました。日本最初の洋画団体である明治美術会を設立し、その中心人物として活躍しました。東京美術学校教授に就任後、フランスに留学。帰国後は京都高等工芸学校教授となり、聖護院洋画研究所、関西美術院を創設し、安井曾太郎、梅原龍三郎など多くの俊才を育てました。浅井忠の作品や資料などにより浅井の生涯と芸術を紹介します。

第20回千葉県移動美術館

より多くの県民の方々に、本館所蔵の作品を鑑賞していただくため、以下の2会場で展覧会を開催します。

展示作品は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野にわたる約40～50点を予定しています。

■第1会場

会場／白浜町フローラルホール
会期／10月29日(火)～

11月8日(金)

住所／安房郡白浜町滝口6767-1
電話／0470-30-5000

■第2会場

会場／白井町郷土資料館
会期／11月19日(日)～

12月1日(日)

住所／印旛郡白井町復1148-1
電話／0474-92-1124

第4回浅井忠記念賞展

千葉県立美術館は、昭和58年度に開館10年記念事業として、公立美術館では初めての全国公募による「浅井忠記念賞展」を開催しました。

このたび、下記により第4回展を開催し、現代における美術の一層の振興を図り、その動向を紹介する機会とします。

出品規定

1. 応募資格
国籍、経歴、年齢を問いません。
2. 応募作品
 - (1) 油彩、水彩の洋画系の平面作品で、「リアリズムの追求」を主題にし、平成4年12月以降に制作された具象的傾向の未発表作品。
 - (2) 規格は、260cm×194cm

(200号)以内。

(3) 応募点数は1人1点。

3. 搬入

期間 11月22日(金)～24日(日)
時間 午前10時～午後4時
搬入場所 千葉県立美術館

4. 審査員

浅野徹、乾由明、陰里鐵郎、加藤貞雄、嘉門安雄、富山秀男、本間正義(五十音順・敬称略)

5. 賞・入賞

【大賞】1点。賞状及び副賞(買上賞)200万円
【優秀賞】3点。賞状及び副賞(買上賞)各100万円
【入選】約100点。賞状

6. 会期

平成9年1月25日(土)～
2月23日(日)

がたるつくる

□ 実技講座 □

県民を対象に創作の喜びを味わっていただくために、各種実技講座を行っています。

※開設時間 12:30～4:30

◆彫刻講座

会期 10月15・16・19・20・22・23・
25・26・27・29・30・31日

講師 石橋 亘

内容 石彫

定員 15名

締切 10月1日



◆書芸講座

会期 12月17・18・19日

講師 宇津木雀聲

内容 漢字、かな

定員 25名

締切 12月3日

◆金工講座

会期 1月28・29・31

2月1・4・5・8・13・

14・18・19・20日

講師 小林 正利

内容 銅版レリーフ

定員 15名

締切 1月14日



<申込方法>

往復ハガキに希望講座名を記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)「千葉県立美術館普及課」あて申し込んでください。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

□ こども写生会 □

県内の小学生を対象に、写生会を開催します。

写生した作品は、美術館の展示室に展示します。

期日 9月8日(日)

受付 9:00～9:30(美術館講堂)

写生時間 10:00～3:00

内容 四つ切大画用紙(36.4×51.5cm)に、絵の具、クレパスなど自由な画材で千葉県立美術館周辺の風景、施設などを写生します。作品は当日提出。(雨天の場合は美術館内で実施します。)

参加対象 県内の小学生

参加料 無料

持ち物 写生用絵画道具・弁当・飲み物・敷物・画板

(画用紙は美術館で用意します)

展示期間 9月25日(水)～29日(日)

展示場所 第6展示室

<申込方法>

往復ハガキに「こども写生会参加希望」と記し、住所・氏名・電話番号・学校名・学年を明記して、8月18日(日)までに「千葉県立美術館こども写生会係」あて申し込んでください。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

□ 美術講演会 □

特別展「一生誕100年記念—「椿貞雄展」に併せて、美術講演会を開催します。

演題 「椿貞雄の画業について」

講師 篠崎 輝夫

(日展評議員・県美術会参事)

期日 9月14日(土)

2:00～3:30

会場 美術館講堂

定員 200名

料金 無料

※入場は、当日先着順です。

□ ミュージアムコンサート □

一弦楽四重奏による名曲の調べをテーマに、バッハやモーツァルト、シューベルトなど古典の名曲や、ベートルズなどのポピュラー曲を15曲演奏します。

演奏 ニューフィルハーモニー
オーケストラ千葉

構成 弦楽四重奏

期日 9月21日(土)

2:00～3:30

会場 美術館講堂

定員 200名

料金 無料

<申込方法>

往復ハガキに「コンサート希望」と記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)9月9日(月)までに「千葉県立美術館コンサート係」あて申し込んでください。

但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

<美術館案内>



●JR総武線「千葉」駅より「千葉ポートタワー行」

バス15分「美術館・中央郵便局前」

下車徒歩1分

●JR京葉線・千葉都市モノレール

「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

☎ 043(242)8311 (代)